

▶青少年健康センター会長からのご挨拶 齋藤 環	1
▶茗荷谷クラブ活動報告	2
▶会費等報告／2023年度決算報告	3
▶CENTER NEWS	4

青少年健康センター会長からのご挨拶

私事で恐縮ですが、10月につくば市で精神科クリニックを開業いたしました。「つくばダイアログハウス」と言います。この名称については、かつての青葉台ハウス、小日向ハウスなどの名残を感じとっていただければうれしく思います。

現在私は、センターの事業として「ひきこもりダイアログ講座」を担当しておりますが、オープンダイアログを経験したいというご家族の要望になかなか応えられないジレンマがありました。新たな拠点ができると、従来よりも幅広いニーズに応えられると思います。センターの関連機関としてもご活用いただければさいわいです。

当院は児童精神科を標榜していませんが、私個人は「児童も成人もすべて思春期事例として対応する」というのが基本方針なので、子どもの相談にも（専門外であると断って）応じています。ダイアログハウスの診療をはじめから、新規のひきこもり相談、不登校の相談も増えてきました。

不登校と言えればつい最近、驚くべき報道がありました（NHK New Web 2024年10月31日付記事「不登校の小中学生過去最多34万人余に11年連続で増加 文科省」）。文部科学省のまとめによれば、全国の小中学校で30日以上欠席した不登校の状態にある子どもは、34万6482人で、前の年度と比べて4万7000人余り増加し、過去最多だった、というのです。内訳は小学生が13万370人、中学生が21万6112人でした。また、認知されたいじめの件数は、小学校が58万8930件、中学校が12万2703件、高校が1万7611件、特別支援学校が3324件のあわせて73万2568件で、前の年度よりも5万件余り増えて過去最多となっていました。

なにかとんでもない異常事態が進行していると感じるのは私だけではないでしょう。不登校が問題行動だから、ではありません。文科省は平成28年に「不登校を問題行動として扱うべきではない」という趣旨の通

達を出しています。しかし、義務教育である小学校、中学校に行けない生徒がおよそ35万人にも上るという状況を見ると、もはや生徒個人の要因で考えることは難しく、学校環境の問題として対処が進められるべきだと思います。これははっきり申し上げるなら、「教育システムの制度疲労」が原因でしょう。

旭川のいじめ再調査委員会に関わった経験から、学校現場の状況の一端を垣間見ることができました。現場の先生方は尋常ならざる努力を重ねているとは思いますが、その点には敬意を表します。しかし学校空間の閉鎖性、アップデートされない学校の指導方針など、多くの問題が積み残しになっている。特に「指導」のあり方は、その基本がいまだに昭和時代の「非行対策モデル」のままであるように思います。私見ではこうした非行対策モデルは、不登校やひきこもりといった「非社会的現象」にはむしろ有害です。

学校関係者の一部からは、教育現場にもオープンダイアログを導入したい、という要望がしばしば聞かれます。そこで最大の障壁になるのが、こうした「指導文化」です。指導の前提は教師—生徒の上下関係ですが、対話の前提は対等でフラットな関係です。フラットな立場で対話を重ね、ともに学び、ともに変わるといった姿勢がなければ、対話そのものが成立しないのです。

不登校35万人という異常事態に対するもっとも有効な処方箋は、「対話文化」の導入以外にはないと私は確信しています。昨年は法務省幹部の鶴の一声で、全国の刑務所でオープンダイアログが実践されるようになりました。同じくらいラディカルな決断を、文科省はためらわないでほしい。そう心より願っています。

公益社団法人青少年健康センター
会長 齋藤 環

茗荷谷クラブ活動報告

2024年10月14日(月祝)に、COMOLYさん主催のKOMORIBITO FES2024(<https://comoly.jp/komoribitofes2024>)に参加してきました！これは、ひきこもり当事者・経験者の表現(アート)の発表の場で、文化祭です。COMOLYさんは「ひきこもりながら社会とつながる」ことをコンセプトに、在宅ワークやオンライン居場所、そしてリアルな活動を組み合わせて人とのつながりを紡ぎ直すことをされている会社さんです。

COMOLYさんに参画した茗荷谷クラブのメンバーの橋渡しで、茗荷谷クラブで結成された音楽バンド「茗荷谷バンド」が出演し、茗荷谷クラブが今回の文化祭に協賛団体として参加することになりました。改めて受け入れてくれたCOMOLYさんと、橋渡ししてくれたメンバーさんにお礼です。

フェスの当日、メンバーの方もバンドの応援もかねてたくさんいらっしゃり、茗荷谷バンドの勇姿はとてもエネルギーをもらいました。この日に向けて、スタジオで練習を重ねていたらしく、きっと色んな不安やワクワクがありながら、皆で乗り越えていったのだろうと想像しております。この非日常の晴れ舞台に向かって、時間と場を共有して歩むことは、彼らの悪くない人生の1ページだったと勝手に思っています。

茗荷谷クラブは、こうした家族や支援者以外の人たちとつながること、仲間、ひいては「横のつながり」をもつことは悪くないと思い、むしろこれからも応援したいと思っております。コロナ前は、茗荷谷クラブが終わった後、メンバーさん同士で「アフター」と言って、近くにファミレスでお話をしたりしていたそうです。現在はアフターの文化は途絶えておりますが、月1~2回の夕方のゆったりカフェオンでのカフェ活動は大盛況で、横のつながりを求めている動きを感じます。ですので、サークル活動をクラブとして今現在応援しており、麻雀サークルなどが展開しはじめています。

そうした「横のつながり」の大事さは、80年代に学生の無気力に向き合った精神科医の笠原嘉氏(1984)の言葉ですが、このように語られております。「自らの体験や感覚や印象を互いに確かめ合う・・・(中略)・・・自分と同じことを体験し、同じ不安を未来に投げかけている人間が少なくとももう一人そこにいることを知る意義は大きい。大人の単なる慰めではなければ、書物からの知識ではない。それまでの自己中心的視野はコペルニクスの転回をとげる。相互の考え方の妥当性の確認であり、社会性を獲得していくための不可欠の一步である」。

10年以上前に、FC茗荷谷というフットサルサークルが立ち上がりました。今現在も、スタッフと離れて自主的に活動を続けております。また、イベントでOBとお会いすると、実は誰それとこの前忘年会をやりましたという話を聞いたりすることもあります。このように新たな「横のつながり」は、この不確実な世の中を渡り歩く上で、それなりに頼もしいものとなっているように思えます。

河合隼雄氏が子育てに関して、「親の目が届かないところで子は育つ」という表現をされたことがありました。この親

をスタッフや社会人とも言い換えることができるでしょう。自立や依存の対象の“庇護者”の目から離れ、「横のつながり」の人とともに社会に共存したり対抗したりすることが何よりも重要だと考えます。ただこうした機会は、今の社会では残念ながら剥奪されてきたように思えます。そんな彼ら・彼女らに、社会は長い目の理解と、自尊心が奪われない限りの保障が必要です。茗荷谷クラブは今後も彼ら・彼女らと共に歩んでまいりますので、ご支援のほどよろしくお願ひします。



KOMORIBITO FES 2024
2024
10 10:30
14 18:00
(月・祝)
入場無料
COMORIBITO — いわゆる「ひきこもり」の人々が
創り上げる、音楽・アート・ゲームの祭典！
開催場所
Iwate Prefectural Center Square & メグパース
Iwate Prefectural Center Square
メグパース

会費・寄付金・助成金・補助金報告 (2023年8月～2024年10月)

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および団体・企業様の助成金、ご寄付、補助金などによって支えられています。ここに心から感謝申し上げてご報告いたします(敬称略)。

【正会員】

稲村 優子	岩佐 壽夫	河野 治子	小石 誠二	笹原信一郎	菅原 建	高橋 清久	中島 聡美
西村 秋生	能勢 孝子	日高 正枝	眞下 テル	松岡太郎	宮田タマ恵	米沢 宏	

計：280,000円

【維持会員】

江頭 樹	遠藤幸代子	生出 美穂	北川由布子	君塚 広	木村 志義	齋藤親一郎	佐久間雄大
鈴木 邦一	高橋 章浩	田村 恭子	徳江 逸子	戸村みどり	藤井 幸子	藤本 純子	村田 祐子
宮崎 圭子	山内 正樹	渡辺 彰子	匿名30名				計：550,000円

【SW会員】

205名 計：2,170,000円

【寄 付】

稲村 優子	齋藤親一郎	清水 孝純	鈴木 厚一	常廣 澄子	徳永 威典	のばまん	本間 陽子
丸山 邦子	山下 正美	匿名 10名					

ソフトバンクつながる募金/ヤフーネット募金/住信SBIネット銀行募金 計：12,096,364円

【助成金・補助金】

キャリアアップ助成金 237,000円

2023年度決算報告 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 経常増減の部			
(1)経常利益			
1 基本財産運用益	0	0	0
2 受取会費	780,000	750,000	30,000
3 受取補助金等	14,969,264	10,519,103	4,450,161
寄付金収入	14,016,022	5,849,889	8,166,133
補助金・助成金収入	953,242	4,669,214	△ 3,715,972
4 事業収益	122,577,042	108,044,477	14,532,565
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	121,825,542	107,362,779	14,462,763
公2 社会参加支援プログラム開催事業	0	0	0
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	0	0	0
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	751,500	681,698	69,802
公5 青少年自殺予防事業	0	0	0
5 その他の収益	210	61,950	△ 61,740
経常収益計	138,326,516	119,375,530	18,950,986
(2)経常費用			
1 事業費	120,781,596	116,243,281	4,538,315
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	109,574,917	103,773,616	5,801,301
公2 社会参加支援プログラム開催事業	461,389	426,362	35,027
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	1,641,830	1,575,640	66,190
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	5,577,246	7,085,823	△ 1,508,577
公5 青少年自殺予防事業	3,526,214	3,381,840	144,374
2 管理費	8,424,324	7,768,808	655,516
経常費用計	129,205,920	124,012,089	5,193,831
当期経常増減額	9,120,596	△ 4,636,559	13,757,155

CENTER NEWS

2023年8月～2024年9月（敬称略）

8月

- 茗荷谷クラブ女子会(月1回)
- 茗荷谷クラブ よつば庵（40代以上の居場所 年6回）
- 文京区アウトリーチサポーター養成研修（全3回）
講師：坂東充彦（跡見学園女子大学）、割田大悟（ひき桜代表）
- 板橋区ひきこもり家族教室（月2回）
講師：井利由利・手塚久美子・倉島徹・内畷真木・太齋慧（茗荷谷クラブ職員）
- 千代田区講演会「ひきこもり家族のライフプラン～親亡き後の子の生活を考える～」
講師：畠中雅子（ファイナンシャルプランナー）於 高齢者総合サポートセンターかがやきプラザ4階
- メルクマールせたがや10周年シンポジウム
講師：斎藤環、山登敬之（明治大学子どもどころクリニック院長）、保坂展人（世田谷区長）、廣岡武明（メルクマールせたがや施設長）、足立千啓（メルクマールせたがや副施設長）於 成城ホール

9月

- 茗荷谷クラブ ソフトボール大会
- 令和5年度文京区茶話会（年間6回開催）
講師：茗荷谷クラブ職員 於 文京区民センター

10月

- ひきこもりダイアログ講座（3月まで月1回開催）
講師：斎藤環（当法人代表理事）
- 青少年健康センター職員総会開催 於 世田谷キャロットタワー
- 文京区講演会「ひきこもりを理解する～当事者活動から見えてきたこと～」
講師：林恭子（ひきこもりUX会議代表理事）於 文京区民センター
- 茗荷谷クラブ 秋の一泊旅行@山中湖

11月

- シンポジウム「その「支援」、本当に必要ですか？」
講師：斎藤環、勝山実（当事者）、小川一平（当事者）
於 連合会館・Zoom開催
- ひきこもり家族のライフプラン講座個別相談会 3月まで計4回開催
講師：畠中雅子（ファイナンシャルプランナー）於 青少年健康センター
- 台東区講演会「ひきこもり当事者との新しいつながりを考える～COMOLYの取り組みを通して～」
講師：山田邦生（株式会社Meta Anchor 代表取締役）
於 千代田区役所
- 茗荷谷クラブ スポーツ大会 於 文京スポーツセンター
- 朝霞農園 焼き芋大会
- KOMORIBITOFES 2023
茗荷谷クラブメンバーが文化祭イベントにバンド演奏として参加 於 ISI国際学院池袋カレッジ
- 東京都保健福祉財団 支援者向け研修「居場所支援」「居場所支援セミナー講義編」
講師：井利由利 於 東京都保健福祉財団

12月

- 茗荷谷クラブ クリスマス会 於 かるた会館
- 東京都合同説明相談会参加 於 シアター 1010

1月

- 茗荷谷クラブ「生活のお困りごと、解決から見る地域福祉～会話で世の中を豊かにする～」
講師：古市盛久（御用聞き代表）於 茗荷谷クラブ

2月

- 茗荷谷クラブ 文化祭@シルクロードカフェ
- 文京区講演会「思春期青年期のひきこもる人のメンタルヘルス～ココロの悩み？それとも病気？～」
講師：内野敬（あだち若者サポートテラスSODA室長 於 文京区民センター）
- 東京都ひきこもり等のサポートガイドライン研修「ひきこもり等のサポートガイドライン研修～茗荷谷クラブ実践例を通して～」
講師：井利由利 於 東京都福祉保健財団

3月

- 台東区講演会「ひきこもりのご家族ができること」
講師：益田裕介（早稲田メンタルクリニック院長）於 台東区役所
- 茗荷谷クラブ 花見&バーベキュー 於 朝霞農園

2024年度

4月

- ひきこもりダイアログ講座（年6回開催）
講師：斎藤環 於 アカデミー茗台
- 茗荷谷クラブ 合同ハイキング 於 多摩動物公園

5月

- 茗荷谷クラブ 春旅行@奥多摩
- 令和6年度文京区茶話会（年間6回開催）
講師：茗荷谷クラブ職員 於 文京区民センター

6月

- 文京区講演会「ひきこもりからの生き直し 社会と離れてもう一度つながるまで～」
講師：岡本圭太（社会福祉士・精神保健福祉士）於 文京区民センター
- 台東区講演会「誰もが活躍できる「働き方」を考える～ひきこもりから社会への一歩～」
講師：小関智宏（ディースタandard代表取締役）、倉光洋平、茗荷谷クラブメンバーOB

7月

- 茗荷谷クラブ ハイキング@横浜
- 文京区 令和6年度ひきこもりサポーター養成研修「ひきこもりの理解と実際」
講師：井利由利 於 区民会議室

9月

- 茗荷谷クラブ「遺言書セミナー」
まごころ相続コンサルジュ 行政書士 於 茗荷谷クラブ

【訃報】

青少年健康センター前副会長
関川俊男様のご逝去

青少年健康センターの設立当初より多大なるお力をいただき、2021年まで副会長を務めた関川俊男様が2024年2月6日（火）、ご逝去されました（享年87歳）。約40年のセンターの歴史には紆余曲折あり、運営状況が大変厳しい時もございましたが、どんな時も法人を支え、職員を励まし、事業を進める活力をいただきました。ここに長年に亘るご貢献に心より感謝を申し上げます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



2019年 職員総会